

謹賀新年



地方に注目が集まる新たな時代に 選ばれる地方都市「平戸市」へ

明

けましておめでとうござい
ます。市民の皆様方におか
れましては、令和5年の新
春をお健やかに迎えにされたこ
とを心からお喜び申し上げますと
もに、平素より市政推進に対し深い
ご理解と温かいご支援をお寄せ頂き
ましたことに改めて厚く御礼を申し
上げます。

さて、昨年末にかけて新型コロナウイルスの感染状況については、重症者の数が少ないことから行動制限も緩和されたまま平穏な年末年始を迎えることができました。

その一方で、世界情勢に目を向け

を着実に進めていく節目の年となっています。

この中で特に、政府が進めております「デジタル田園都市構想」の実現のため平戸市DX推進計画を柱として、官民協働によるデジタル社会の構築の実現を加速化してまいります。

さらに気候変動の原因となっている二酸化炭素削減に向けた脱炭素社会の実現のために、平戸市は全国的にも先進地域であった再生可能エネルギーの推進を基盤に、地域循環共生圏の先進自治体100に選考される取り組みを進めていかなければなりません。すでに木質バイオエネルギーの活用や民間企業による高品質バイオディーゼル燃料の普及促進について具体的な作業行程に入っており、注目が集まっています。

また歴史や文化の面においては、四年前の「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」の世界遺産登録に加え、国指定重要無形民俗文化財の「平戸のジャンガラ」が全国各地に伝承される「風流踊」としてユネスコの無形文化遺産に登録されたことは大きな喜びでもあります。こうした先人から受け継いだ貴重な財産を未来世代とともに共感共有しながら、今後の観光振興や交流人口の増大に



平戸市長
黒田成彦

ますと、ロシアによるウクライナへの侵略行為によって、様々な分野における経済的な打撃は私たちの生活にも影響をもたらしています。この間、政府による積極的な財政支援や、何より市民の皆様のご理解とご協力のお陰をもちまして、冬休みにかけての観光客も徐々に平戸を訪れる方々が増えており、従来の賑わいを取り戻しつつ、安心安全な年末を迎えることができましたことに心より感謝申し上げます。

本年は、平成30年度から10年間を見据えた平戸市総合計画の折り返しの年にあたり、新年度より後期計画

つなげてまいります。

新型コロナウイルスの感染拡大に悩んだこの3年間は、私たちの生活にも大きな変容をもたらしました。

しかしその一方で、都市部にいる住民や企業経営者にとっても、この大きな変革の節目において、地方を見直す潮流が始まっています。リスク回避や安全を保障するための企業移転や分社化の流れは、これまで日本列島の端っこであった平戸にとって「利点」としての魅力を評価していただけており、新たに連携を申し込む企業も少なくありません。

人口減少は避けられない状況ですが、交流人口や関係人口を維持・増大することによって、市民一人ひとりの幸福実現への道筋を描いていかなければならないと思っています。

市民の皆様におかれましては、市政に対しましての尚一層のご理解とご協力をお願い申し上げますとともに、選ばれる地方都市「平戸」の信頼をより高めることによって、迫りくる幾つもの課題を乗り越えてまいります。

結びに、この1年が皆様にとりまして、限りなくお幸せで明るい飛躍の年になりますことをお祈り申し上げます。年頭のごあいさついたします。



平戸市教育長
松永 靖

英語教育では、中学生の「英語暗唱大会」に、小学生の部を新設し、自らの思いを英語で表現する「イングリッシュ・パフォーマンスコンテスト」として実施することで、表現力の向上に力を入れています。

また一昨年、新型コロナウイルス感染症拡大により中止となった令和三年成人式が、令和四年成人式

「明」
けましておめでとうございます。新型コロナウイルス感染症の流行も4年目に入り、学校や地域社会では、感染防止対策を徹底し、各種行事を通常に近い形で実施しました。

昨年、GIGAスクール構想に基づき、市内の小中学校で児童生徒へ一人一台タブレット端末を導入し、調べ学習やドリル学習等、家庭学習などで活用しています。感染症などによる自宅待機時にも、授業の様子をタブレットで確認し、学習の継続を支援しています。

安心安全で 一人ひとりが飛躍する 平戸市を目指して



平戸市議会議長
山田 能新

「明」
けましておめでとうございます。平戸市議会を代表して、一言新年のごあいさつを申し上げます。市民の皆様には、輝かしい初春を新たな希望と期待の中で迎えられることと心よりお慶び申し上げます。

また、日頃から市議会活動に対し温かいご理解とご協力を賜り厚く御礼を申し上げます。

私も議長に就任し1年2カ月が過ぎようとしております。新たな年を迎え、責任の重さを改めて感じるとともに、平戸市のさらなる発展のために、引き続き努力してまいりたいと決意を新たにしております。

さて、昨年を振り返りますと、台風等による災害は例年より少なかったものの、9月には台風11号、14号の接近により、市内全域において長時間の大規模停電が発生するなど、市民生活に大きな影響を与えました。また、新型コロナウイルス感染症もオミクロン株などの変異株が出てきて収束が見られない状況にあり、議会としましては、市民の皆様への不安軽減、安心安全な暮らしの確保の対策を行政と一体となり検討してきたところでもあります。



長崎県議会議員
西川 克己

「明」
けましておめでとうございます。皆様方には、お健やかに正月をお迎えのこととお喜び申し上げます。

新型コロナウイルスは昨年も衰えることなく、長崎県では12月3日現在で23万9千名を超える新規感染者が確認され、このうち353名の方が亡くなっています。

また、昨年のプロ野球九州アジアリーグの福岡北九州フエニックスの公式戦や、平林金属のソフトボール実業団のキャンプなど、レベルの高いスポーツとの触れ合いは今年も継続して取り組みます。

また、県民の命と健康を守るために日夜奮闘されている医療・福祉関係の方々に対して敬意を表し、感謝いたします。

さて、昨年9月定例議会にて一般質問をし「本県の財政状況について」「雇用対策について」「農産物の振興について」「道路行政について」

等6項目について県当局の考え方を質しました。幹線道路の整備では、西九州自動車道の平戸インターチェンジと平戸島を最短で結ぶ田平工区は、国道383号の岩の上大橋交差点において朝夕の時間帯を中心に混雑しているところから、現在、平戸大橋から市南方面への左折レーンの追加について検討を進めているとの答弁をいただいております。